

第 160 号 発行日 平成 22 年 4 月 5 日

合格通信

今
月
の
名
言

人間として守らなければならないことは、親がいつも率先してお手本を示しながら、子どもにも守らせること。理屈でなく行動で教えること。

井深 大
(ソニー創業者)

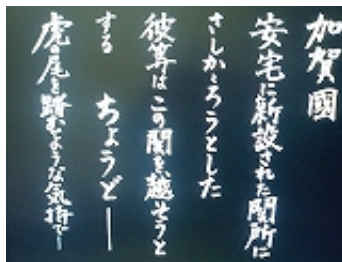
これは、塾生のみなさんと、特進スクールを訪れてくれた、小中高校生の皆さんとお問い合わせいただいたお父さん、お母さんに向けて、勉強法や受験に役立つ話題をお届けする情報誌です。



オールナイト映画 黒沢明篇

大学生のころ今のようなシネコンなどなかった時代ですから東京の街中には単独の映画館がまだまだ残っていました。新作を封切りする映画館と昔の名作を中心に上映する名画座といわれる比較的小規模な映画館の2種類があり、名画座には土曜の夜10時から翌朝5～6時に終了する「オールナイト映画」というのをよくやっていたのです。4～5本立てで料金も700～800円位という破格の安さで観ることができました。かなりの数を観ましたが、なかでも圧巻だったのは新宿コマ劇場地下(今はありません)で観た「黒沢明特集」でした。1983年4月2日のことです。

そのときの作品は比較的初期のもので組まれており「姿三四郎」「続姿三四郎」「虎の尾を踏む男たち」「酔いどれ天使」「野良犬」の5本で、姿三四郎はTVドラマで知っていましたが、他の作品はすべて見たことのないもので、全く予備知識がなくさほど期待もしていなかったのですが、すべてが楽しめました。このなかで一番印象に残ったのはわずか1時間ほどの作品ですが「虎の尾～」だったのです。タイトルからして(どうせ黒沢の失敗作か)と思っていましたが、始まるといつしか食い入



るように観ていました。内容は鎌倉時代、頼朝に追われた義経、弁慶の一行が山伏姿に変装し今の石川県小松市近くの安宅関というすでに頼朝の手の内にある関所を弁慶の機略で無事通り抜けると言う話。つまり歌舞伎の「勧進帳」です。関守の富樫と弁慶の押し問答、弁慶が白紙の勧進帳を読み上げる場面、義経を棒でたたく場面は最高に盛り上がります。(のちにTVでも観ましたが、劇場で見るとは感銘度がぜんぜん違います)この日の5本立てはすべて重量感ある、実に見ごたえのあるもので、このあと黒沢の映画にドブプリとはまったのはいうまでもありません。

(大学生時代でしたが、体力的にはきつかったです。3本目あたりは睡魔に勝てず絶対寝ます。帰りは始発電車で帰宅するのですが、電車の中では朦朧状態、帰って午後1時ごろまで爆睡してました。)